

〇くじ付き年賀切手（2010年11月10日）50+3円のシートに関して

年賀切手の始まりは、1935年からであり、最初は富士山で20面シートだったが、1950年から小型シートも発行されるようになり、今でも、その歴史は続いています。その歴史の中で、寄付金付き年賀切手が加わって発行されるようになったのは、1989年の12月2日からで、その歴史は、30年近くになる。一方、くじ付き年賀はがきは、1949年12月1日からの歴史がある。そのくじ付き切手が考案された際、最初、切手にくじを付けて、一体、どうなるだろうかと思ひ、値上がりしないかと期待が大きく、50面シートを1枚購入したが、そんなに、価格変動に変化は無かった。それから、たまに、くじ付き年賀切手をシート（50面シート）で買ったりしていたが、一昨年から、1シートは、20面シートと変更になり、その原因に、益々、年賀を出す人が携帯電話、インターネットの普及でかなり少なくなったのが要因と思うようになってきた。

右のページに、2010年11月10日発行の50+3円のシートの部分コピーを載せよう。1シートは、くじ番号、、00から、、49の50枚シートと、、50から、、99の50枚シートの2つが揃って、、00から、、99の通し番号になるが、そこまで収集する拘り、また、金銭的ゆとりもなく、収集していたが、20面シートになり、もうくじ付き年賀切手の収集は止めようとも思っている。2010年11月1日発行の50+3円のシート一枚に、偶然、当たりくじ切手が一枚有り（ここでは、011302の02が末賞の当選番号）、くじ付き年賀はがき同様に、数字の箇所、消印を押されるが、50面シートの当選部分のくじ付き切手に、消印を押すのは、至難の技である。切手の横部分が、25.0mmであり、手押し消印の満月直径が、24.0mmなので、隣の切手を汚すことなく、消印を押すには、運任せの技で、私の出したシートに、無事、押せた事に興奮し、安どの気持ちを表わせた局員さんの顔が、思い出される。

